

「海とまちをつなぎ、世代をつなぐまちづくり～にぎわいと安心・安全の実現」

広場が生ま出す 隠岐の新しい風景

フェリーターミナル前面の臨港道路を付け替え、交流機能としての広場に変えることで、「海とまち」「人と人」をつなぐ新しい場所が隠岐の島に生まれます。広場によって生ま出されるつながりは、

4つの「新しい風景」を西郷港周辺地区にもたらしめます。

- ・こどもと育むー 隠岐の未来
- ・みなで楽しむー 隠岐の生活
- ・旅人と交わるー 隠岐の文化
- ・世界に伝えるー 隠岐の誇り

誰もがこの風景の一員になれる場所。西郷港周辺地区は変わります。



<交通機能の整備>
 フェリーターミナルへのアクセス機能を海側に集約します。

- ・公共交通バス、観光バス用3台、タクシー用2台、一般車用5台の乗降スペースを設け、別にタクシープール9台を設けることにより、車の流れを円滑にします。
- ・駐車スペースは、南側に一般車用として65台、北側に物量倉庫を移設し、長期利用者用として22台、ジオゲートウェイ用に26台を確保します。
- ・レンタカーは、現在あんき市場があるところに、レンタカープール12台を確保します。

<暮らし機能・商業機能の整備>
 道路に沿った商店店舗は、広場と共に島の新しい風景となり、にぎわいを創ります。

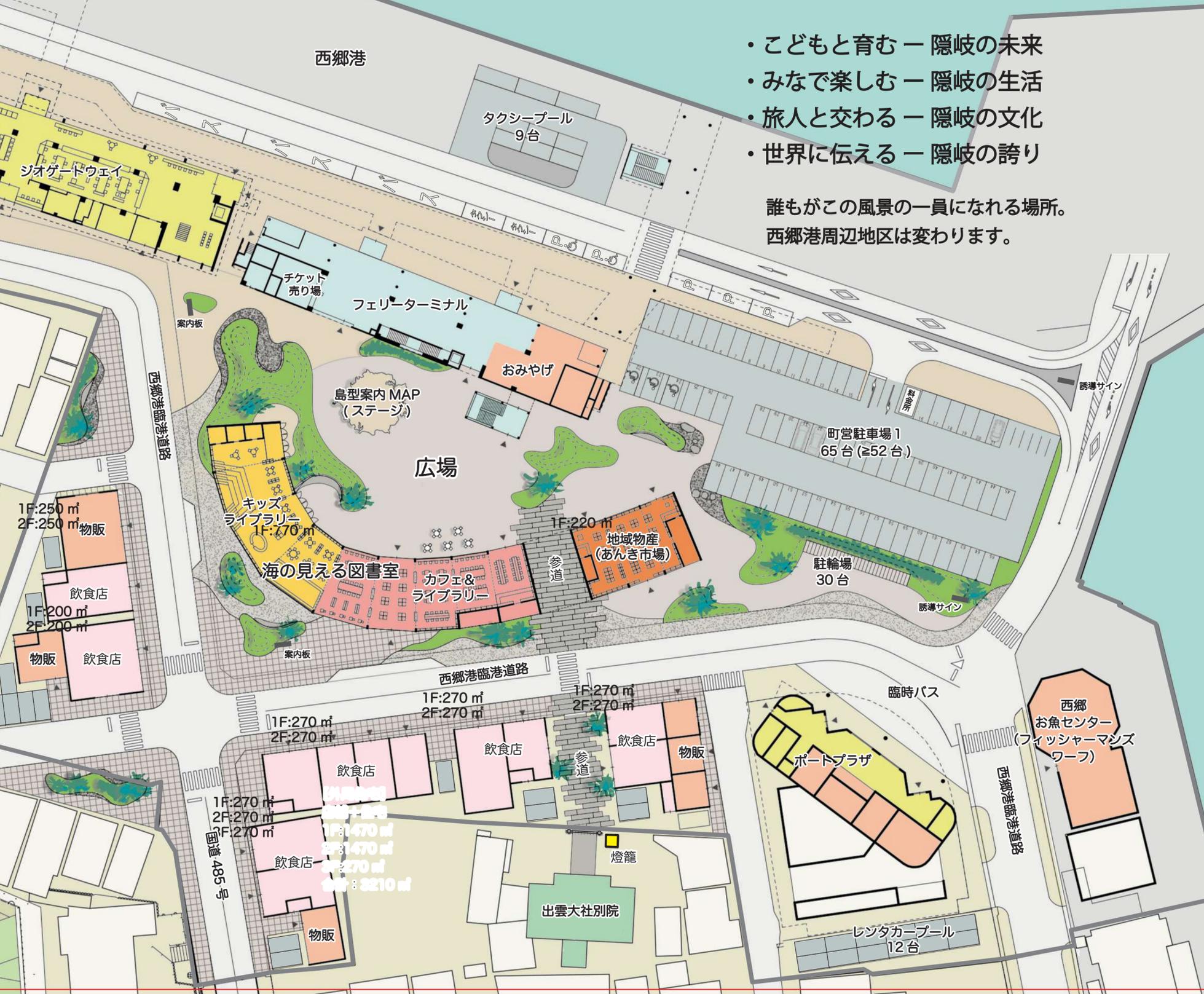
- ・広場を生み出すことで移転の必要がある住居・商業機能を3階建ての建物に変更して移設することで、生活と生業の継続を実現します。
- ・1階部分を全て商業とすることで、道路に沿って統一感のあるにぎわいを創り出します。
- ・課題であった駐車場については建物を多層化することにより、住居に隣接した駐車スペースを生み出すことができます。
- ・各建物の屋上部分は一時避難場所として活用できるように防災備蓄機能を配置します。
- ・住居の一部には定住体験住宅にも利用できる余白を残します。移住を希望される方の一時的な居住や中長期のワーケーションに活用します。

<交流機能・商業機能の整備>
 島の日常の風景にあった船小屋をモチーフとした、「海見える図書室」を交流機能を担う拠点として広場に設置します。

- ・こどもから高齢者、町民から来訪者も利用するエリアとなり、西郷港周辺地区に新しい風景を生み出す原動力になります。
- ・海見える図書室には隣接・内包する形でカフェ、物販、あんき市場、キッズスペースを配置します。

<交流機能の整備>
 広場と出雲大社別院をつなぎます。

- ・出雲大社別院に向かう、奥行きのある景観にします。
- ・広場からは出雲大社別院と共に、北前船の航路の目印となった燈籠を望むことができます。



広場が生み出す4つの新しい風景

新しく設置する広場は交流機能を担う「海見える図書室」を配置し、以下4つの新しい風景を近隣エリア全体に生み出す起点となります。

① こどもと育む一隠岐の未来

広場に設置する「海見える図書室」には島内最大規模のキッズスペースを配置。島の未来を担うこども達が本や遊具を使って遊び・学べるスペースを設けます。また、読み聞かせの実施や広場と連動した大型遊具を使用したイベントなどを定期開催します。図書室内では持ち込み学習ができる座席も豊富に用意し、未来に向かって学びを楽しむこども達を後押しします。こども達の活動を通じて、隠岐の輝ける未来が感じられる場所になります。

② みなで楽しむ一隠岐の生活

「海見える図書室」にはカフェと図書が融合したカフェ＆ライブラリーを配置。1杯のコーヒーを飲みながら読書やコミュニケーションを楽しめる町民のサードプレイスとなります。図書は館内閲覧専用とし、隠岐の島の文化や生活をテーマにした選書を中心に行います。町民も来訪者も本を通じて隠岐の島をより深く知れる図書室になります。ゆったりとした時間を過ごせるカフェ＆ライブラリーで、隠岐の上質な生活を感ぜられる場所になります。

③ 旅人と交わる一隠岐の文化

広場に設置する「海見える図書室」にはWi-Fi環境や電源席を整備し、ワーケーションが十分に行える環境を整えます。町民が先生になって行く島の文化講座や島の食文化を伝える料理教室などを実施し、町民と来訪者の文化交流の場にもなります。

④ 世界に伝える一隠岐の誇り

広場には「あんき市場」を移転させることで、町民も国内外の来訪者も隠岐の島が誇る新鮮な食材に出会えるようにすることを提案します。また、広場を活用したマルシェ（朝市）を開催し、朝採れの魚介など楽しめるようにします。「海見える図書室」の一部には隠岐の島独自の「良いもの」を取り扱う特設コーナーを設け、国内外の来訪者に島独自のクラフトや地酒の販売を行います。カフェにはBARタイムを設け、地酒と簡単なおつまみが楽しめるようにもします。



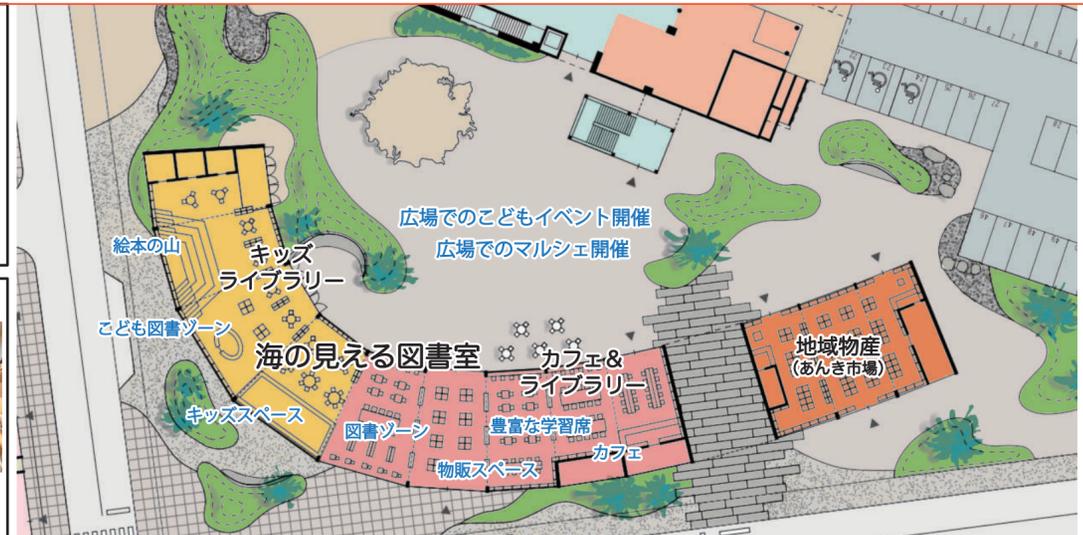
広場では大型遊具を使用し、イベントを定期開催します。



幼少期の思い出になる象徴的な読み聞かせゾーンを配置します。



絵本から読み物まで幅広く設置します。



「あんき市場」と連携したマルシェの開催を計画します。



「あんき市場」の移転を提案します。隠岐の島の誇る新鮮な魚介類を購入できる場所になります。



知育玩具などで遊べるキッズスペースを配置します。



持ち込み学習を可能とする豊富な学習席を配置します。電源、Wi-Fi環境も整備します。



図書ゾーンには、3,000冊規模の本を設置。コーヒーを飲みながら、読書が楽しめます。



隠岐の島の「良いモノ」を本と一緒に展開し、隠岐の島の誇るべきモノを伝えます。



町民と来訪者のサードプレイスとなるカフェを設置します。BARタイムを設け、地酒も提供します。

「海見える図書室」デザインイメージ

海と生きる隠岐の人々の生活と共にあった船小屋をデザインモチーフにします。「海見える図書室」は1層とし大城山方面の視界を確保します。弧を描き、連続する切妻の屋根の型は広場と街並みにリズムを生み出します。広場には島の観光ポイントがひと目でわかる、島の形を模したテーブル状案内マップを設置し、ジオゲート内の観光案内所との連携を図ります。



にぎわいを演出する手法

① 広場を活用したイベント開催

キッズスペースと広場を連動させた大型遊具でのイベント実施や、「あんき市場」と連携したマルシェの開催などを通じて、町民も来訪者も西郷港周辺地区に滞在する多様な理由を生み出します。



② 「海見える図書室」でのイベント開催

「海見える図書室」の中でも講演会やものづくりワークショップなどを開催します。こどもから高齢者まで幅広い層を対象にした多彩なイベントを開催することで、誰でも楽しめる西郷港周辺地区となります。



③ 広場周辺の商業整備の実行

広場をつくることで新しく建てる住居＆商業棟は1階部分を全て商業のフロアとします。道沿いの広場に面して新たな商店街の景色となり、視覚的ににぎわいが生まれます。



運営に関する手法

① 365日開館

広場及び「海見える図書室」は原則365日年中無休の開館を行うことを提案します。お正月やお盆など、島外に出た若者達が帰省する際に安心して集まれる公共の場となります。

② 地元スタッフによる運営

広場及び「海見える図書室」は指定管理者制度などを活用し、公設民営を提案します。デザイン性やサービスの内容など、若者が働きたく魅力的な施設にすることを意識します。地元雇用を推進し、運営ノウハウが未永く地元に残り続けるよう、共同提案企業がサポートを行います。

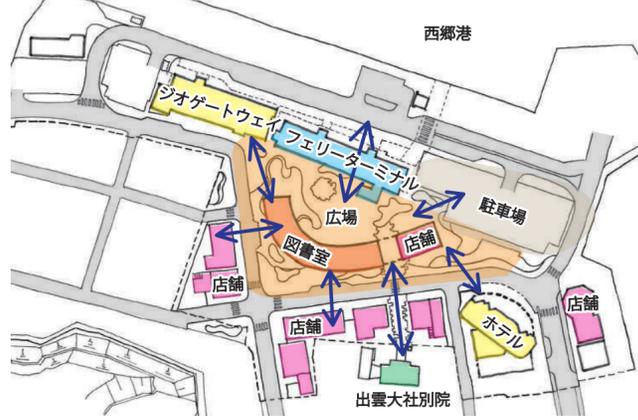
③ 商業機能のマネジメント

商業機能には既存の事業者の出店に加えて、新規出店の余白を設けます。町民ニーズ、来訪者ニーズを把握した上でリーシングを行う中間支援機能を担う組織（まちづくり会社等）の立ち上げを検討し、商業区画の統一性を図りながらバランスのとれたテナント構成を実現します。

④ 防災対策

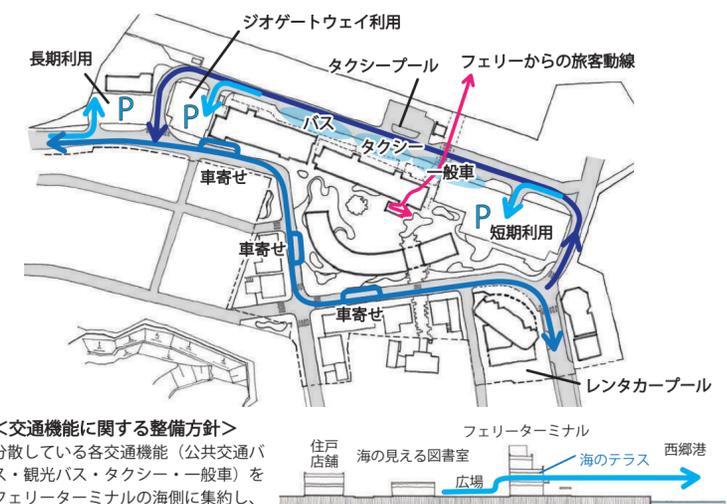
利用者及びスタッフの安全を確保するため、「海見える図書室」のスタッフは災害時対応を訓練等により身につけ、災害を最小限に防ぐよう努めます。また新しく建てる住居及び商業等の屋上部分は一時避難所として利用できるようにします。

各機能の連携を深めるための手法



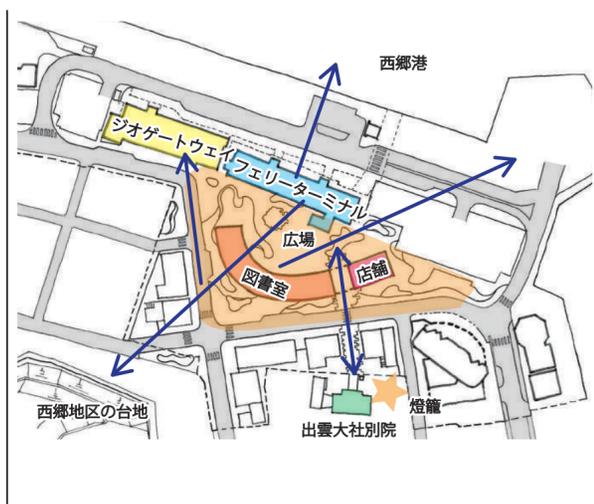
<エリア全体の機能配置図>

広場を介して、各施設への動線が明確（シンプル）になり、各施設の連携を深め、広場を中心に新しいにぎわいが生まれます。フェリーターミナル2階から直接広場につながる階段を設け、各施設への旅客動線を整備します。ジオゲートウェイ側に広げることで、広場との連携を図ります。



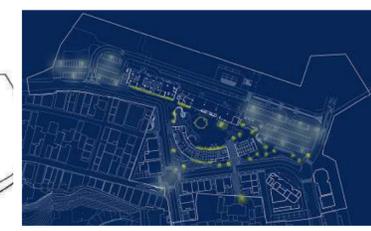
<交通機能に関する整備方針>

分散している各交通機能（公共交通バス・観光バス・タクシー・一般車）をフェリーターミナルの海側に集約し、車の流れをスムーズにします。道沿いには歩道幅2.5m以上の歩行空間をつくり、各所に車寄せを設けることで、安心して西郷港周辺に集える環境を整備します。広場から直接つながる階段を介して、フェリーターミナルの2階に新たなカフェ機能を持つ「海のテラス」を設けます。待合スペースと旅客動線はサインを使って明確にし、フェリーからブリッジを渡ってきたところには、島全体の大きな観光インフォメーションを展示します。



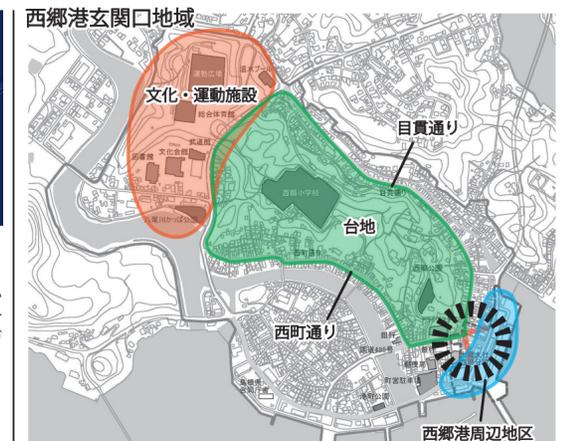
<景観形成に関する整備方針>

ターミナルビルに続く2階レベルのブリッジを撤去し、視界を広げることで、広場を介して、まちと海をつなぎます。広場を新たに作ることで、アプローチ側（国道485号線）から、フェリーターミナル・ジオゲートウェイの全景が見え、島の新しい景色となります。また、広場、西郷地域の台地への視認性を高め、町民はもとより来訪者にも、災害時の避難場所を分かりやすくします。



<照明計画>

駐車場は明るさを確保しますが、建物まわりは、室内からのこもれ灯を重視し、歩行に支障のない明るさにします。ジオゲートウェイの明るさに合わせた、ターミナル壁面へのライトアップや、ガラス張りの階段室の照明演出を行います。



<西郷港周辺地区デザイン図>

新しくつくる広場は、台地を囲うように、川沿いに沿って走る「西町通り」と「自貫通り」の接点に位置します。海を望む広場に島の人々の日常を喚起し、利便性に富む新しい施設を設けることで、人々の流れが文化施設・運動施設の利用を含め西郷港玄関口全域に広がり、地域を活性化します。海そして川へとつながる広場での日常は、西郷地域の歴史的な川沿いの街並みを再認識するきっかけに満ち溢れています。